

研究課題 (テーマ)		「伝統的酒造りと無形文化遺産—日本の民俗、酒と文化」	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者			
金城朱美	工学部教養教育センター	准教授	金城朱美
研究結果の概要			
<p>2024年12月、「伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産に登録された。本研究では、その登録背景と今後の展望を考察するため、まず日本酒文化に関する文献調査を実施した。並行して、富山県内の祭事(射水市ボンボコ祭り、小矢部市酒とり祭、黒部市愛本姫社まつり)の参与観察を行うとともに、株式会社成政酒造ならびに皇国晴酒造株式会社(富山県)、白瀧酒造株式会社ならびに今代司酒造株式会社(新潟県)の各酒蔵や、灘、伏見、伊丹の酒造ミュージアムを訪問した。さらに「日本の伝統的なこうじ菌を使った酒造り技術の保存会」会長へのインタビューや、皇国晴酒造株式会社での造り手体験を通じ、現場視点からの知見を深めた。これらの調査を経て、日本酒は単なる嗜好品ではなく、日本の伝統儀礼や慣習を支えるために不可欠であることを再認識した。文化遺産への登録は、これまでの日本の文化や慣習を次世代へ継承するための重要な端緒となる。日本酒は、日本のアイデンティティを未来へと繋ぐ極めて重要な文化装置であるということがわかった。</p> <p>講義「比較文化学II 日本とドイツの無形文化遺産」にて和食および伝統的酒造りを取り上げ、どちらも麴(糀)が重要であるため、新村こうじみそ商店代表に「こうじの文化」について講義していただいた。学生が県内の伝統産業や地場産品、ひいては食生活の改善に目を向ける契機を創出することができた。併せて、報告者の研究成果を教材として活用し、文化遺産が持つ意義について学生へ多角的に提示している。</p>			
今後の展開			
<p>今後も本研究課題に取り組み、日独研究文化遺産研究プロジェクトへ発展させる。「比較文化学II」の講義では、引き続き「日本とドイツの無形文化遺産」をテーマとし、研究成果を還元するだけでなく、無形文化遺産に関連する富山県内の企業様のご協力を得て、学生が富山県の魅力や伝統産業について学べる機会を設け、文化と工学、看護など自分の専門領域と関連付けて考えたり、自らの食生活について考えなおしたりする機会を持てるよう授業デザインしたい。</p>			